

110 マツカサガイ

(イシガイ科)

兵庫県ランク:B

Pronodularia japonensis

環境省ランク:NT

種の概要

東北から九州にかけて広く分布し、小川や水路のほか、ため池や湖などに生息する。殻長40~50mm程になる。殻幅/殻長比は35~40%程度でニセマツカサガイ(貝類Aランク)より殻幅が相対的に薄い。後背部は湾入しないかわずかに湾入する。殻表面には、後背部の稜を中心とした山形(V字形)の彫刻と、前方側にこれより小さな漣模様がある。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○		○	△	○			○

県内分布

加古川市、小野市、加西市、姫路市、たつの市、豊岡市、篠山市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。日本海側では竹野川水系の水路の狭い範囲でしか見つかっていないが、瀬戸内海側では各水系に散見され、ため池にも生息している。良好な生息環境が維持されている場所では、今もなお多産することで、多種よりもランクを低く設定したが、多くの既知産地では著しい減少や老成個体のみの場合もあり、このままでは近い将来、絶滅が危惧される。

保護上の留意点

ため池では水質を保全するために適度な池干しを実施し、幼生のホスト魚であるシマヒレヨシノボリなどを絶やさないためにオオクチバスとブルーギルの侵入阻止と駆除を徹底する。流れの緩やかで砂泥が堆積し、魚類が豊産する水路や小川、支流を維持、造成すること。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修